

実施状況等調査報告書

令和7年12月2日

目的	公益財団法人中島記念国際交流財団助成による2025年度留学生地域交流事業に係る実施状況等調査
調査団体	名古屋工業大学 (愛知県名古屋市昭和区御器所町)
事業名	留学体験バスツアーが結ぶ留学生と日本人学生の国際交流 ～MEI工MEI経MEI治村, MEI友作るバスツアー～
調査団体対応者	名古屋工業大学 国際交流課 係長 横井 裕紀
機構実施者	留学生事業部留学生事業計画課支援計画係 専門員(併)係長 太田 賢一 主任 麻上 純
調査日時	1. イベント見学:(機構実施者:太田、麻上) 令和7年11月29日(土)10時00分～15時30分 2. ヒアリング:(機構実施者:太田、麻上) 令和7年12月11日(木)10時00分～10時30分
実施形態	1. イベント見学:対面 2. ヒアリング:オンライン(Teams)
報告事項	<p>1. イベント見学について</p> <p>1) イベント名:文化体験バス旅行～留学生と日本人学生の国際交流@明治村～</p> <p>2) 参加対象:外国人留学生、日本人学生、大学職員等</p> <p>3) 参加者数:52名 ※外国人留学生32名、日本人学生15名、大学職員5名</p> <p>4) 概要:</p> <p>博物館明治村における複数大学の日本人学生と外国人留学生が参加する日本文化体験バスツアーを開催した。活動前に、在籍大学の異なる日本人・留学生混合グループを設定し、グループ活動による学生間交流を促した。活動当日は、午前午後でグループを変え、また、それぞれのグループにおける課題(アクティビティ)を与えて学生間で協力して取り組むことにより、日本人学生及び外国人留学生が交流するきっかけを提供するものとなっていた。明治村は、明治期に建設された建造物を移築、保存しているテーマパークであり、関連する歴史資料も収蔵、公開されている。学生らは与えられた課題(アクティビティ)を通じて、それらの建造物や資料に触れることで明治建築の歴史や時代背景について、理解を深めている様子であった。また、それらの活動を通じて、自然と会話が生まれ、談笑する様子も見られるなど、参加者の自然な交流を促す実施内容となっていた。グループに与えられた課題(アクティビティ)にも、日本の歴史や建造物に興味を持つよう促す内容となっており、全体として工夫が凝らされた内容となっていた。</p>

## 【写真】

(イベント実施の様子①)



(イベント実施の様子②)



(イベント実施の様子③)



## 2. 実施状況等調査 (ヒアリング) について

### ・概要：

東海・信州地域の国立大学及び高等専門学校に周知を行い、結果として、名古屋工業大学、名古屋経済大学及び名古屋大学の外国人留学生と日本人学生が参加した。当イベントの発案は、名古屋市の国際留学生会館のイベントに参加した名古屋工業大学と名古屋経済大学の職員同士の会話がきっかけとなっており、留学生地域交流事業の募集のタイミングとうまくマッチングしたこともあり、今回のイベント実施に繋がったとのことだった。

参加した学生は多くが初対面であり、往路のバス内では緊張した雰囲気も見られたが、目的地である明治村にてグループワークを始めると、徐々に打ち解け、良い交流が図られている様子であった。学生同士の交流を促進するため、当バスツアー参加前に事前課題等を課すことも検討したが、それによって参加する側のハードルが上がる可能性があったため、あえて事前課題等は課さず、当日のグループワークを通じた学生同士の交流に重きを置いたとのことだった。集団行動をさせたことにより、学生同士の交流の深まりが早い傾向がみられたとのことだった。

事後アンケートにおいても、高い満足度を示す結果がみられ、学生からも高い評価を得た実施内容となった。

大学側から、会計報告における証拠書類の原本提出についての確認があった。大学の方針として、会計監査の観点から原本は学内で保管することが基本であり、機構が求めている原本提出が難しいとのことであった。それに対して機構からは、原本での提出が難しい場合、原本証明による提出も可能である旨回答した。

当事業の助成により、大学や国籍の垣根を超えた学生間の交流が可能となった旨大学から感謝の言葉があった。今後も他大学の学生や地域住民の交流の機会を増やす取り組みを続けていくとのことであった。

(ヒアリングの様子)

